

今日は、10分間だけお時間を頂戴して、世界経済についてお話したいと思います。

まず、世界の「道」がどのようになっているかを、インド、ベトナム、アメリカの3カ国の映像をご紹介します、経済の発展段階をご確認いただきたいと思います。

インドは現在、大変大きな発展を遂げていますが、2年前のインドはまだバイクが主な交通手段でした。去年の6月にベトナムを訪れましたが、こちらも皆バイクに乗っていました。最後にアメリカですが、こちらは高速道路網も整備され、完全な車社会です。

今、世界経済にはドバイショックやギリシャの財政不安など、様々な問題がありますが、大きなトレンド、つまり10年単位で今後の世界経済を考える場合には、これら3カ国の光景にこそ、重要な示唆があると考えています。

例えば、ベトナムの人たちの主な交通手段はバイクですが、10年後、彼らは間違いなく車に乗っていると思います。中国はと言えば、今年の自動車販売台数が1,300万台と、アメリカの1,000万台を抜いて世界一の規模になります。

ポイントはここで働く人たちの収入です。ベトナムの労働者の月収は8,000円程度と、中国の労働者の月収1万2,000円よりも割安なため、中国から工場が移転してきます。これはチャイナプラスワンと呼ばれる動きであります。8,000円の月収は、今のベトナムの人たちにとっては夢のような給料なのです。

確かに、バブルによってリーマンショックのような危機は起こりますが、途上国の人たちはもっと物を欲しがっているということを理解していただきたいのです。日本は、世界で最も発達した公共交通機関を備えていることにも象徴されるように、ある意味で需要が満ち足りた状態になっているため、ともすれば経済が成長を止めたように見えるかもしれません。しかし世界経済全体で見れば、潜在的な成長力は大きいと考えることができます。

今の日本の問題は、そういう大きな流れを掴めていないことであり、経済政策によるサポートも手当てしつつ、ボリュームゾーンと呼ばれる年収100万円程度の人たちが買えるものを作っていけるかどうか課題となるわけです。

今日、ここにお集まりの方々には、日本経済もいろいろ問題を抱えているとお考えかもしれませんが、確かに問題は抱えているのですが、日本は大阪も含めてパワーは持っているわけですから、30億の人口を抱えるアジアの経済発展を如何に掴んでいくかが非常に重要なポイントだと考えています。

本日は、私のメッセージとして、悲観論に囚われず、世界経済の大きな流れをしっかりと見ていきたいと思います。ご静聴、ありがとうございました。